

2016年(平成28年)10月5日



アクリル配管に黒色のアイスピグが通過し洗浄効果を確認

アイスピグ工法

流量改善に
効果を発揮

700mを20分で

塩尻市で圧送管洗浄

塩尻市発注の長距離圧送管洗浄業務(平成28年度公共管路清掃業務委託その2)において、アイスピグ管内洗浄工法が採用された。元請会社は管清工業(長谷川健司社長)で、施工協力会社は山越(相澤宏暢社長)。9月21日の洗浄作業に合わせ、現場見学会が開かれ、塩尻市、茅野市、諏訪市、

伊那市、箕輪町ら自治体職員や地元業者ら約20人が視察に訪れた。700mの圧送管を短時間で洗浄し、洗浄後には約2割の流量改善が認められるなど高い洗浄効果を発揮した。

現場は、塩尻市衛生センターから近隣住宅地をつなぐ圧送管(管種Ⅱダクタイル鋳鉄管、LⅡの1000×700)で、平成18年度に布設された。同センターで受け入れたし尿を公共下水道に流入するための管路。従来は、定期的に希釈水で管内洗浄を実施していたが、4月に圧送ポンプの圧力が上昇、夾雑物堆積による管閉塞の恐れが指摘されていた。そこで、夾雑物除去による流

量改善を目的に洗浄作業を検討し、今回アイスピグ工法を採用した。同工法は、特殊製法で製造したアイスシャベットを用いた革新的管内洗浄工法。伏越し部などの複雑な配管形状部に堆積した夾雑物除去に優れ、管閉塞の心配もなく、長距離圧送管に対応した唯一の洗浄技術。中部地域では、山越が特殊アイスシャベットの製氷拠点を構える。

作業当日は、午後1時は30・5立方分/h(0・27Mpa)まで回復した。20分にアイスピグ注入作業を開始。管内に2・2

分のピグ形成を確認後、毎分6立方分の流水で押し流し、約20分後には下流部の回収口にアイスピグが到達した。回収口に設置したアクリル配管内を、夾雑物を包み込み黒色に変色したアイスピグが通過すると、見学者らは洗浄効果に目を見張った。その後、ポンプの排水能力および圧力を確認したところ、洗浄前

26・4立方分/h(0・3Mpa)が、洗浄後は30・5立方分/h(0・27Mpa)まで回復した。